

授業科目	音楽表現技術（スクーリング）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的・テーマ	ピアノ演奏技術の向上を目指し弾き歌いのレパートリーを増やし楽しく歌い示す。		
授業の到達目標	各調の音階と、主要三和音の習得。記録表全て終了しグレード試験合格を目指す。		
授業の計画	1	ガイダンス	26
	2	個人レッスン	27
	3	↓	28
	4	実技試験	29
	5	評価（全体・個人・アドバイス）	30
	6	個人レッスン	31
	7	↓	32
	8	↓	33
	9	↓	34
	10	↓	35
	11	実技試験	36
	12	↓	37
	13	↓	38
	14	↓	39
	15	評価（全体・個人・アドバイス）	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	個人レッスン・実技試験		
テキスト/参考文献	ピアノ教本（近畿大学九州短期大学）		
評価の方法や基準	実技試験 授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	高等学校（音楽科）短期大学（幼児教育科）専門学校等での長年に至るピアノ指導と演奏活動		
実務経験の活かし方	各自の資質と能力に応じた指導を心掛け更なる成長を促す。		

履修上の 注意事項	毎回与えられた課題を必ず毎日練習することによって各段階の記録表の課題曲を終了しておくこ
--------------	---

授業科目	幼児と造形表現（スクーリング15時間）		単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	保育園・幼稚園での年間行事に関心を持たせると共に、教育領域に示された「表現」のねらい及び内容について、背景となる造形表現と関連させて理解を深める。			
授業の到達目標	幼児造形における、イメージ表現の世界に理解を深め、まず、個々の表現に対して感動し、褒める教育のできる教育者育成を目標とする。			
授業の計画	1	■年間の保育行事の中からひとつ選んで	26	
	2	色画用紙貼り絵技法によるポスター制作	27	
	3	・参考作品鑑賞	28	
	4	・アイデア出し 下描き	29	
	5	・制作	30	
	6	〃	31	
	7	〃	32	
	8	■保育行事の中から別の行事をひとつ選んで	33	
	9	色画用紙貼り絵技法によるポスター制作	34	
	10	・参考作品鑑賞	35	
	11	・アイデア出し 下描き	36	
	12	・制作	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	■合評会	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	保育園・幼稚園の年間行事予定表からの季節感あふれるポスター制作。イメージの具現化。			
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 図画工作 保育科資料 モーネ工房 こども寺子屋			
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。			
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	幼児と健康（スクーリング）		単位／時間	1／15
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	運動遊びの特性とその展開について学習し、効果的な保育技術・教材づくりに関する知識の習得を目指す。			
授業の到達目標	運動遊びの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得するかくしゅの運動遊びを素材とした短期の指導計画を作成する事が出来る。			
授業の計画	1	オリエンテーション からだほぐし		
	2	ふれあい遊び、鬼遊び		
	3	大型遊具を使った運動遊び（マット）		
	4	大型遊具を使った運動遊び（跳び箱）		
	5	大型遊具を使った運動遊び（平均台）		
	6	小型遊具を使った運動遊び（長なわ、短なわ）		
	7	小型遊具を使った運動遊び（フープ）		
	8	小型遊具を使った運動遊び（ボール）		
	9	運動指導のポイント（運動の量）		
	10	運動指導のポイント（運動の質）		
	11	運動指導のポイント（環境の工夫）		
	12	援助の仕方を考える		
	13	遊びの変化や発展を考える		
	14	一斉指導と自由遊び		
	15	まとめの課題（指導計画作成）		
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
授業の方法	講義 実技			
テキスト/参考文献	幼児体育Ⅱ（近畿大学九州短期大学通信教育学部編）保育と幼児期の運動遊び（萌文書林）			
評価の方法や基準	実技中のグループワークへの取り組み（30％）実技指導内容（環境設定、指導上の留意点）についての記録作成（35％）年長児を対象とした指導計画の作成（35％）			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	認定こども園、保育園において体育講師として乳幼児の体育指導を担当			
実務経験の活かし方	現在の乳幼児の指導経験を活かした具体的な運動遊びの実技・講義を行う。			

履修上の 注意事項	テキスト必携 運動遊び指導に適した服装・髪型で受講すること
--------------	-------------------------------

授業科目	図画工作Ⅱ（授業45時間）		単位／時間	1／45
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	2年生では、「何もないところから互いに話し合って協力し、一つのものを創り上げる」共同制作を通じて、さらにコミュニケーション能力を育む。また、実際の現場で様々な作品に触れることで幅広い鑑賞能力を培う。			
授業の到達目標	あらゆるジャンルに伸びてゆこうとする、こどもの芽をのびのびと伸ばすことのできる、幅広い視野を持った教育者、仲間と共に連携して子ども達を見守って行けるコミュニケーション力を育てることを到達目標にしたい。			
授業の計画	8	■音楽を聴いて、イメージを表現しよう。	26	一から自分たちで話し合っ
	9	・1年で習得した様々な表現技法を用いて	27	ひとつの作品を完成させる
	10	イメージを具現化してゆく。	28	(例1) パネルを横にして、全て針金で
	11	幼児の持つ形のない表現世界の理解に繋げる	29	巨大遊園地を作る
	12	■ことばが持つ、イメージを表現しよう。	30	(例2) パネルを縦にして、色紙ちぎり絵で、
	13	・1年で習得した様々な表現技法を用いて	31	巨大イラストを完成させるなど
	14	イメージを具現化してゆく。	32	■紙粘土でオリジナルキャラクター制作
	15	幼児の持つ形のない表現世界の理解に繋げる	33	〃
	9	■合評会	34	公園に行き、撮影。背景シチュエーションを
	10	■作品鑑賞	35	考える。
	11	・校外学習（高知市文化プラザかるぼーと）	36	(例1) イチョウの落ち葉の中のイチョウ君
	12	〃	37	■季節を知ろう！カレンダー制作
	13	ふくちゃん館 横山隆一記念まんが館	38	・カレンダーから好きな季節を選ぶ
	14	昔の子ども達の遊びを体験しよう	39	・その季節のイメージで、黒い用紙に
	15	鑑賞希望。	40	折り紙をちぎって季節を表現する。
	16	■絵手紙を描いてみよう	41	■実習造形報告
	17	・野菜や果物を墨汁を筆を使って	42	・実習先で体験・制作、目にした造形作品を
	18	土佐和紙に描いてもらう。	43	クラス全員の前で報告、発表、
	19	※実際の保育現場では、園で育てたお芋を	44	その制作方法を学び合う。
	20	収穫した後、ふかして食べ、その後絵を描	45	■振り返り
	21	くなど生きた教育を行っているところも。	46	
	22	■共同制作	47	
	23	真っ白いB1 パネルを使用	48	
	24	・横にして造形作品にしても	49	
	25	・縦にして絵画作品にしても自由	50	
授業の方法	単に制作するだけでなく、発表の場を作って、コミュニケーション能力を育てる。			
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学 図画工作 保育科資料 モーネ工房 こども寺子屋			
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童心理治療施設、こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30余年。新技法習得のため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。			
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。			

履修上の 注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。
--------------	------------------

授業科目	子ども家庭福祉	単位／時間	2単位／30時間
開講学科等	子ども未来学科 2年	担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	児童や家庭を取り巻く社会情勢や福祉について学習するとともに、各種児童福祉施設の役割や機能、児童家庭福祉に関連する法制度等について理解を深める。		
授業の到達目標	子どもの権利について理解する。児童家庭福祉の様々な取り組みを理解し、児童家庭福祉に関わる専門職としての職務・役割を理解する。		
授業の計画	1	現代社会と子ども家庭福祉	26 保護者の仕事と生活の調和
	2	少子高齢化と子ども	27 新たな少子化対策
	3	家庭・地域の変化	28 児童家庭福祉の動向
	4	子ども家庭福祉の歴史	29 児童家庭福祉の展望
	5	海外における家庭福祉の歴史	30 まとめ
	6	日本における家庭福祉の歴史	31
	7	子ども家庭福祉の理念と法律 ①	32
	8	子ども家庭福祉の理念と法律 ②	33
	9	子ども家庭福祉の理念と法律 ③	34
	10	子ども家庭福祉の機関と専門職 ①	35
	11	子ども家庭福祉の機関と専門職 ②	36
	12	子ども家庭福祉の機関と専門職 ③	37
	13	児童福祉施設とは	38
	14	児童福祉施設の種類 ①	39
	15	児童福祉施設の種類 ②	40
	16	子ども家庭福祉のサービス	41
	17	虐待防止と支援	42
	18	障害のある子どもへの支援	43
	19	母子保健施策	44
	20	保育サービス ①	45
	21	保育サービス ②	46
	22	認定こども園	47
	23	認可外保育サービス	48
	24	少子化対策と子育て支援	49
	25	少子化対策の流れ	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	子ども家庭福祉-子どもと家庭を支援する-(近大テキスト)		
評価の方法や基準	・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員		
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。		

履修上の 注意事項	・講義終了後、テキストや配布資料に再度目をおし、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。
--------------	--

授業科目	保育原理	単位／時間	2 単位／30 時間
開講学科等	子ども未来学科 2 年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	保育の理念や役割、制度、実践を理解し、保育に関する基礎的な知識を培うことと、保育が直面している切実な課題を知ることにより、各人が課題意識を持って保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見解を持つことを目的とする。		
授業の到達目標	保育の意義や基本的な内容を理解する。		
授業の計画	1	オリエンテーション	26 (6) 保育の評価
	2	『保育』とは	27 (7) 保護者との連携
	3	1 章 乳幼児の特質と保育の意義 (1) 乳幼児の特質と保育の意義	28 8 章 さまざまな保育と課題 (1) 幼稚園と保育所の今後
	4	〃	29 (2) 保育の多様化
	5	(2) 乳幼児期の発達的特質	30 振り返り・まとめ
	6	〃	31
	7	〃	32
	8	2 章 保育思想と児童観の変遷	33
	9	〃	34
	10	〃	35
	11	3 章 近代保育施設・制度の創設と発展	36
	12	〃	37
	13	4 章 各国の保育	38
	14	〃	39
	15	5 章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷	40
	16	〃	41
	17	6 章 保育の目的	42
	18	〃	43
	19	7 章 保育の内容・方法・計画・評価 (1) 保育内容の変遷	44
	20	(2) 今日の保育内容	45
	21	(3) 保育の方法形態	46
	22	(4) 保育方法の基本原理	47
	23	〃	48
	24	(5) 保育の計画	49
	25	〃	50
授業の方法	講義・グループワーク		
テキスト/参考文献	「保育原理」 近畿大学九州短期大学／保育所保育指針		
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度(出席状況を含む)、意欲、関心など		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育士・幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく		
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参		

授業科目	幼児体育Ⅱ	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	神家 美穂
授業の目的・テーマ	乳幼児期の運動発達を具体的に捉え、幼児期の「基本的運動」を中心とした運動経験の重要性について理解を深める。さらに運動遊びの特性とその展開について学習し、効果的な保育技術、教材づくりに関する知識の習得を目指す。		
授業の到達目標	幼児体育における効果的な保育技術、教材づくりに関する地域スポーツと知識の習得を目指す。		
授業の計画	1	オリエンテーション 身体教育	26
	2	身体運動による教育	27
	3	運動の教育	28
	4	必要としての運動	29
	5	欲求としての運動	30
	6	運動発達をどうとらえるか	31
	7	新生児と乳児の運動発達	32
	8	基本的運動の段階	33
	9	物を操作する運動	34
	10	幼児の体力と大人の体力の違い	35
	11	子どものスポーツとその指導	36
	12	教育課程・保育の計画と指導計画	37
	13	指導計画（前提の確認）	38
	14	指導計画（目的・内容・方法の確認）	39
	15	運動遊びの特性とその展開	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	幼児体育Ⅱ（近畿大学九州短期大学通信教育学部編集）保育と幼児期の運動あそび（萌文書林）		
評価の方法や基準	レポート、筆記試験、出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する。			○
実務経験	非常勤体育講師（保育所・認定こども園）		
実務経験の活かし方	園で実践している体育・運動遊びの事例を講義の中で取り上げることによって、幼児の体育指導実践の具体的なイメージづくりにつなげる。		
履修上の注意事項	テキスト必携		

授業科目	子ども家庭支援論		単位／時間	2 / 30
開講学科等	子ども未来学科 2年		担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	保育所のもつ社会的役割について理解する。また家庭機能の変容と子どもを取り巻く環境の変化についても理解し、ニーズに応じた支援のあり方と関係機関との連携について学ぶ。			
授業の到達目標	家庭支援の意義と役割について理解し、説明できるようになること。 家庭を取り巻く社会状況を理解し、子育て支援のあり方や家庭支援の具体的方法について説明できるようになること。			
授業の計画	1	子ども家庭支援の意義と必要性 ①	26	地域の子育て家庭への支援 ①
	2	子ども家庭支援の意義と必要性 ②	27	地域の子育て家庭への支援 ②
	3	子ども家庭支援の目的と機能 ①	28	要保護児童及び家庭への支援 ①
	4	子ども家庭支援の目的と機能 ②	29	要保護児童及び家庭への支援 ②
	5	子育て支援施策について ①	30	子育て支援に関する課題と展望
	6	子育て支援施策について ②	31	
	7	子育て支援と社会資源 ①	32	
	8	子育て支援と社会資源 ②	33	
	9	保育の専門性と家庭支援 ①	34	
	10	保育の専門性と家庭支援 ②	35	
	11	子どもの育ちと喜びの共有	36	
	12	保護者と地域をめぐる子育て支援 ①	37	
	13	保護者と地域をめぐる子育て支援 ②	38	
	14	保護者と地域をめぐる子育て支援 ③	39	
	15	保育士に求められる基本的態度 ①	40	
	16	保育士に求められる基本的態度 ②	41	
	17	家庭の状況に応じた支援 ①	42	
	18	家庭の状況に応じた支援 ②	43	
	19	地域の資源と関係機関等の連携 ①	44	
	20	地域の資源と関係機関等の連携 ②	45	
	21	地域の資源と関係機関等の連携 ③	46	
	22	子ども家庭支援の内容と対策 ①	47	
	23	子ども家庭支援の内容と対策 ②	48	
	24	保育所を利用する家庭への支援 ①	49	
	25	保育所を利用する家庭への支援 ②	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	「子ども家庭支援論」 中央法規 「虐待・親にもケアを」 森田ゆり 著 築地書館			
評価の方法や基準	・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			

履修上の 注意事項	・講義終了後、テキストや配布資料に再度目をおし、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。
--------------	--

授業科目	障害児保育（スクーリング）		単位／時間	1 単位/ 1 5 時間
開講学科等	子ども未来学科 2 年		担当教員	市川 憲文
授業の目的・テーマ	①各障害についての理解をふまえ、現場での具体的な支援や保育の方法について考える ②（児童）虐待の現状と発生にいたる背景について考える			
授業の到達目標	①各障害の理解と基本的な支援方法について理解している。 ②子どもの障害や特性に応じた基本的な配慮や方法について理解している。 ③（児童）虐待の発生する背景について理解している			
授業の計画	1	障害の理解とその援助（知的障害）	26	
	2	障害の理解とその援助（知的障害）	27	
	3	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	28	
	4	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	29	
	5	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	30	
	6	自閉症スペクトラム障害と保育での支援	31	
	7	注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支	32	
	8	学習障害の特徴と保育での支援	33	
	9	障害の理解とその援助（視覚の障害）	34	
	10	障害の理解とその援助（聴覚障害）	35	
	11	障害の理解とその援助（肢体不自由）	36	
	12	障害の理解とその援助（重症心身障害）	37	
	13	虐待について	38	
	14	虐待について	39	
	15	ふりかえり	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義とグループワーク			
テキスト/参考文献	障害児保育（ミネルヴァ出版） プリント資料配布			
評価の方法や基準	試験50% 授業態度（出席率を含む）50%			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	身体障害者施設の支援員 知的障害者入所更生施設の支援員 精神障害者通所授産施設（就労継続B型）のワーカー 地域活動支援センターのワーカー 共同生活援助事業所（知的GH）の支援員			
実務経験の活かし方	①障害特性や関係機関等との連携について、②これまでの障害のある方々への支援を通して、療育や障害児保育の意義や必要性について学生に伝えていきたい。			

履修上の 注意事項	テキスト 筆記用具を持参のこと
--------------	-----------------

授業科目	幼児への特別な支援		単位／時間	1 単位/ 1 5 時間
開講学科等	子ども未来学科 2 年		担当教員	市川 憲文
授業の目的・テーマ	①障害についての概要の理解をふまえて、障害児保育の理念とその方法について理解する。 ②障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題を理解するとともに、関係機関や施設などの社会資源について学び、障害のある子ども本人やその家族を支援するための連携について学ぶ。			
授業の到達目標	①障害の捉え方、障害福祉における概念についての概要を説明できる。②障害児保育や療育の意義について説明できる。③子どもの障害や特性に応じた基本的な配慮や方法について理解している。④関係機関や施設などの社会資源の基本的な役割や機能について理解している。			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	
	2	障害児保育とは	27	
	3	障害とは（概要）	28	
	4	障害福祉における様々な概念	29	
	5	障害児保育を支える理念	30	
	6	障害児保育の歴史	31	
	7	障害児保育の現状と課題	32	
	8	療育でのかかわりと育ち①	33	
	9	療育でのかかわりと育ち②	34	
	10	専門機関の種類と連携	35	
	11	福祉施設の種類	36	
	12	福祉施設の種類	37	
	13	障害児の就学や保護者の支援①	38	
	14	障害児の就学や保護者の支援②	39	
	15	ふりかえり	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義とグループワーク			
テキスト/参考文献	障害児保育（ミネルヴァ出版） 適宜プリント配布			
評価の方法や基準	試験50% 授業態度（出席率を含む）50%			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	身体障害者施設の支援員 知的障害者入所更生施設の支援員 精神障害者通所授産施設（就労継続B型）のワーカー 地域活動支援センターのワーカー 共同生活援助事業所（知的GH）の支援員			
実務経験の活かし方	①障害特性や関係機関等との連携について、②これまでの障害のある方々への支援を通して、療育や障害児保育の意義や必要性について学生に伝えていきたい。			

履修上の 注意事項	テキスト 筆記用具を持参のこと
--------------	-----------------

授業科目	子どもの食と栄養	単位／時間	1単位 / 15時間
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	大坪 豊寿
授業の目的・テーマ	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの成長段階における食生活について理解する。 3. 習得した理論を演習を通して実践に結びつけられるようにする。		
授業の到達目標	1. 子どもの年齢や発達段階に応じた健康的な食生活を具体的に提案できる。 2. 妊娠期からの食生活が生涯の基礎になることを理解し実践できる。 3. 子どもに関わる現場において、授業で学んだことを表現できる。		
授業の計画	1	小児期の栄養と食生活の意義	26
	2	小児の発育・発達と栄養・食生活	27
	3	〃	28
	4	栄養・食生活の基礎知識	29
	5	〃	30
		〃	31
		〃	32
	6	消化・吸収 エネルギー代謝	33
	7	食事摂取基準	34
	8	妊娠・授乳期の栄養と食生活	35
	9	乳児期の栄養と食生活	36
	10	〃	37
	11	幼児期の栄養と食生活	38
	12	〃	39
	13	学童期・思春期の栄養と食生活	40
	14	特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活	41
	15	児童福祉施設における食生活	42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義、演習		
テキスト/参考文献	新保育ライブラリ『子どもの食と栄養』二見大介・斎藤麗子（北大路書房）		
評価の方法や基準	筆記試験（60点以上）。授業・演習（受講態度と成果物、発表スキル。対象児・者が正しく理解できることを評価基準とする。）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	病院・大学・専門学校（看護・リハビリテーション）・教育委員会・市町村の育児相談で乳児から思春期までの食生活や栄養、病態栄養について相談や指導、啓発活動を行っている。		
実務経験の活かし方	育児相談で得た情報・日本スポーツ協会公認栄養士として活動している食事調査から得た食生活の問題点を生かし、望ましい食生活について講義や演習に反映していく。		
履修上の注意事項	配布資料をファイルすること。		

授業科目	子どもの食と栄養SC	単位／時間	1単位 / 15時間
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	大坪 豊寿
授業の目的・テーマ	保育者として、小児に適切な食事環境を整え、心身の発達に応じて必要な食事が提供できるように、各時期の特性や栄養について理解し、調理の技能の習得を目指す。		
授業の到達目標	小児の発達・発育の特性を踏まえ、栄養の基本的な知識を身に付け、小児期の心身の発達に応じた栄養法や、食生活、保育所給食、児童施設給食や食育の重要性を身に付ける。		
授業の計画	1	乳児期の乳汁栄養について 食育の基本的考え方	26
	2	衛生管理 幼児の食育授業について	27
	3	調乳実習 食育における動機づけ	28
	4	〃 食育授業案作成	29
	5	離乳食の意義と必要性について 食育媒体作成	30
	6	演習① 食育媒体作成	31
	7	〃 食育発表	32
	8	幼児期の栄養について 調理の基本、セルフチェック	33
	9	幼児期の食事のバランスについて 衛生管理	34
	10	幼児期の間食の必要性について 症状別に合わせた食事について	35
	11	偏食等、食の問題点への対応方法 離乳食について	36
	12	演習② 幼児期の食事のバランス	37
	13	〃 幼児期の献立作成	38
	14	食育媒体作成 発表	39
	15	幼児の食育授業案、発表	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義、実習、演習（食育媒体作成・発表）		
テキスト/参考文献	新保育ライブラリ『子どもの食と栄養』二見大介・斎藤麗子（北大路書房）		
評価の方法や基準	レポート提出、課題発表と成果物、課題レポートで評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	病院・大学・専門学校(看護・リハビリテーション)・教育委員会・市町村の育児相談で乳児から思春期までの食生活や栄養、病態栄養について相談や指導、啓発活動を行っている。		
実務経験の活かし方	育児相談で得た情報・日本スポーツ協会公認栄養士として活動している食事調査から得た食生活の問題点を生かし、望ましい食生活について講義や演習に反映していく。		

履修上の 注意事項	配布資料をファイルすること。
--------------	----------------

授業科目	子どもの保健	単位／時間	2／30
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	畠中 ゆかり
授業の目的・テーマ	子どもの特徴は、絶えず成長・発達していること。その内容をきちんと理解でき、子ども達を観察し、見守ることができ、自分が保育士になった時何が出来るか具体的に実行でき、自覚と責任を持った保育士を養成していく。		
授業の到達目標	子どもの保健に関する基本的知識や理論について理解し、子どもにおこりやすい疾病や事故について学び保育者としての対応に繋がることを到達目標とする。		
授業の計画	1	小児保健の基本	26 安全と事故対策
	2	〃	27 〃
	3	〃	28 課題・レポート
	4	小児の発育	29 〃
	5	〃	30 まとめ
	6	〃	31
	7	〃	32
	8	〃	33
	9	小児の生理機能	34
	10	〃	35
	11	〃	36
	12	小児の運動機能	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	〃	40
	16	小児の精神機能	41
	17	〃	42
	18	先天異常	43
	19	〃	44
	20	〃	45
	21	家庭看護	46
	22	〃	47
	23	〃	48
	24	予防接種	49
	25	〃	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	よくわかるこどもの保健（ミネルヴァ書房）、わかりやすい子どもの保健（同文書院）		
評価の方法や基準	出席、授業態度、レポート、筆記試験		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	総合病院にて助産師として勤務		
実務経験の活かし方	命を大切にする姿勢、助産師としての経験を授業の中に取り入れる。		

履修上の 注意事項	授業態度を重視します。
--------------	-------------

授業科目	保育の心理学		単位／時間	2／30
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	生涯発達理論、子どもの身体・運動、知覚・認知、情動、言語、社会性の発達について学ぶ。			
授業の到達目標	1 教育および保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。2 乳幼児、子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得する。3 養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を深める。4 生涯発達の観点から初期経験の重要性について理解する。			
授業の計画	1	発達心理学の課題①	26	老年期の生活②
	2	発達心理学の課題②	27	現代社会と発達①
	3	発達についての理論①	28	現代社会と発達②
	4	発達についての理論②	29	現代社会と発達③
	5	発達についての理論③	30	まとめ
	6	発達についての理論④	31	
	7	言葉の発達①	32	
	8	言葉の発達②	33	
	9	知的発達①	34	
	10	知的発達②	35	
	11	環境と発達①	36	
	12	環境と発達②	37	
	13	感情の発達①	38	
	14	感情の発達②	39	
	15	感情の発達③	40	
	16	感情の発達④	41	
	17	社会性の発達①	42	
	18	社会性の発達②	43	
	19	道徳性の発達①	44	
	20	道徳性の発達②	45	
	21	青年期の発達①	46	
	22	青年期の発達②	47	
	23	成人期の生活①	48	
	24	成人期の生活②	49	
	25	老年期の生活①	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	「保育の心理学」 近畿大学九州短期大学 「保育の心理学－育ってほしい10の姿」 中山書店			
評価の方法や基準	・ 考査点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			

履修上の 注意事項	・ 講義終了後、テキストや配布資料に再度目をおし、発達課題について理解を深める。
--------------	--

授業科目	子ども家庭支援の心理学		単位／時間	2／30
開講学科等	子ども未来学科 2年		担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	・人間の生涯発達及び、乳幼児期の初期経験の重要性を理解する。 ・子どもの精神保健と現状及び、子ども家庭福祉に要する心理学的知識や家庭の意義と機能 ・子育てを取り巻く社会状況を理解する。			
授業の到達目標	1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。			
授業の計画	1	生涯発達	26	トラウマとメンタルケア
	2	乳幼児期から学童前期にかけての発達①	27	子どもの生活環境とその影響
	3	乳幼児期から学童前期にかけての発達②	28	子どもの生育環境とその影響
	4	乳幼児期から学童前期にかけての発達③	29	子どものこころと健康
	5	乳幼児期から学童前期にかけての発達④	30	子どもと発達障害
	6	乳幼児期から学童前期にかけての発達⑤	31	
	7	学童後期から青年期にかけての発達①	32	
	8	学童後期から青年期にかけての発達②	33	
	9	学童後期から青年期にかけての発達③	34	
	10	成人期・老年期における発達①	35	
	11	成人期・老年期における発達②	36	
	12	成人期・老年期における発達③	37	
	13	家族・家庭の意義と機能①	38	
	14	家族・家庭の意義と機能②	39	
	15	家庭関係・親子関係の理解①	40	
	16	家庭関係・親子関係の理解②	41	
	17	子育てについての意識	42	
	18	子育て支援の状況	43	
	19	子育てをめぐる社会的状況①	44	
	20	子育てをめぐる社会的状況②	45	
	21	ライフコースの変化と特徴	46	
	22	保護者のライフコースと子育て	47	
	23	子どもと家庭を取り巻く様々な課題①	48	
	24	子どもと家庭を取り巻く様々な課題②	49	
	25	家庭におけるメンタルケア	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	新基本保育シリーズ9 「子ども家庭支援の心理学」 中央法規			
評価の方法や基準	・ 考査点 (80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	公認心理師資格(国家資格) 社会福祉士資格(国家資格) 児童心理療育施設副施設長 児童家庭支援センター・母子生活支援施設心理療法担当職員			
実務経験の活かし方	各テーマについて講義を行ったあと、事例等を紹介し、意見交換を行いながら理解を深めていく。			

履修上の 注意事項	・講義終了後、テキストや配布資料に再度目をおし、発達や子育て支援をめぐる課題についてや理解を深める。
--------------	--

授業科目		教育実習		単位／時間		4／180	
開講学科等		子ども未来学科2年		担当教員		山下 昌世	
授業の目的・テーマ		座学で学んだことを、体験から子どもを理解して、テキストでは得られない保育知識を身につけ、スキルを向上させていく。今後どんな保育をしたいのか、どのような教師になりたいか、実習を通して具体的な目標を見つけ保育への志望を再確認していく。					
授業の到達目標		教育実習が円滑かつ有意義におこなえるよう、日々の目標を明らかにし、意欲を高め反省もし、自己の成長を感じ職業としての意欲を高める。					
授業の計画	1 ↓ 90	観察実習：一日の流れ、幼児の実態、教師の動き等		91 ↓ 180	責任実習：教師の立場を身をもって		
		2年次で体験した実習を再確認していく			理解し、責任ある保育実践を		
		物的環境 地理的環境 教材の状況			実施する。		
		人的環境 沿革と保育方針					
		乳幼児の構成とクラス編成			◎部分実習		
		教職員の構成					
		幼児の実態、教師の職務内容			◎1日実習		
		保育の流れについての理解			担任教師の保育計画の理解		
		各々の目的・視点を定めた観察			保育計画に基づいた指導案の立案		
		日々の日誌の中で、自己を反省			幼児の動きの予想		
		し、目的ある観察を行う			環境構成の工夫		
		↓					
		参加実習：十分に観察・理解をした後に			集団・個々を意識した指導		
					児童文化財や教材の扱い		
					◎反省会		
					↓		
					実習のまとめ、反省		
授業の方法							
テキスト/参考文献							
評価の方法や基準		出席状況 学習意欲 試験					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○			
実務経験		幼稚園教諭					
実務経験の活かし方		幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした実習を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。					

履修上の 注意事項	よりよい実習を行うために、実習巡回を通して学生の体調管理およびメンタルをサポートする。
--------------	---

授業科目	教育相談		単位／時間	2 / 30
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	乳幼児・児童は、一生の中でも、もっとも急速に成長発達をする時期にある。この時期は、子どもだけでなくその保護者にとってもストレスを感じながらの生活となる。それに加えて急激な社会や環境の変化が子ども達に及ぼす影響は相当なものだと想像される。この大人と子ども両者の精神的負担に対して以前は同居する年寄りや地域が与えていた「安らぎ」を、現代では教育現場にも求められるようになってきた。つまり、教育現場の教師達は多くの課題を抱えながら子どもや保護者達のために「安らぎ」の機能を発揮できるかについて学習する。			
授業の到達目標	テーマを習得すること			
授業の計画	1	よりよい子育て支援のために必要なことは	26	集団の中で育つ幼児の心
	2	子育て支援に生かすカウンセリングの理論	27	教育相談を進めるための組織的な整備と多職種との連携
	3	幼児理解の基礎	28	
	4		29	学習の振り返り
	5	幼児理解に関する心理学理論	30	振り返りと確認
	6		31	
	7	子育て支援に生かすカウンセリングの技法	32	
	8		33	
	9	幼児期における保護者の心理の理解	34	
	10		35	
	11	様々な課題（養育困難）をかかえる保護者への支援	36	
	12		37	
	13	幼児期における諸問題の理解と心理的支援	38	
	14		39	
	15	障害のある子どもをもつ保護者への支援	40	
	16		41	
	17	精神疾患の疑いのある保護者の理解と対応	42	
	18		43	
	19	教育相談の必要性と教育相談における今日的課題	44	
	20		45	
	21	子育て支援に生かす構成的グループエンカウンター	46	
	22		47	
	23	幼児期における問題行動：早期発見と早期対応	48	
	24		49	
	25	親の回へのサポートの実際	50	
授業の方法	講義とロールプレイ			
テキスト/参考文献	子育て支援カウンセリング 幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート 図書文化 新聞記事 映像			
評価の方法や基準	科目終末試験に向けた学習・ロールプレイの実技評価・授業課題の提出物・学習姿勢			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭。幼児・小学生・中学生における発達障害・不登校および非行児童生徒・保護者へのカウンセリング、学習指導。			
実務経験の活かし方	幼児教育現場教員経験から考えるカウンセリング手法や、これまで相談を受けていたカウンセリングの内容をもとに学生に下す。			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	保育・教職実践演習		単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科 2 年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が実践力として、保育現場で発揮できるよう形成されているかどうか確認するとともに、将来保育者とし職務を遂行するにあたり、自分自身の不足している課題が何なのかを意識化し、その向上を図っていく。			
授業の到達目標	幼児理解の統合を図り、保育者としての使命感や責任感を持った、実践的指導に必要な能力を高める。			
授業の計画	1	自己分析（自己・他者評価から考える）	26	
	2	保育者を目指して…目指す私・思い描く保育者像	27	
	3	保育者になる前に（保育士・幼稚園教諭・施設保育士）	28	
	4	保育者の資質	29	
	5	保育における子ども理解の方法・理解の実際	30	
	6	・実践的に理解する/子ども理解と記録	31	
	7	・保育カンファレンスの重要性	32	
	8	・気持ち理解（おもしろさ・やりたくない）	33	
	9	保育者の専門性（考察・成長・論理）	34	
	10	保育者としての仕事及び使命感と責任	35	
	11	保育をめぐる様々な動向	36	
	12	仕事を成功に導く対人関係能力	37	
	13	保育実践力①	38	
	14	保育実践力②	39	
	15	まとめ	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義 ロールプレイ			
テキスト/参考文献	保育・教職実践演習（近畿大学九州短期大学）			
評価の方法や基準	出席状況 学習意欲 試験			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭			
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	保育教職実践演習（スクーリング）	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が実践力として、保育現場で発揮できるよう形成されているかどうか確認するとともに、将来保育者とし職務を遂行するにあたり、自分自身の不足している課題が何なのかを意識化し、その向上を図っていく。		
授業の到達目標	幼児理解の統合を図り、保育者としての使命感や責任感を持った、実践的指導に必要な能力を高める。		
授業の計画	1	実習の振り返り	26
	2	保育・教育職の意義と職務内容	27
	3	安全管理・危機管理	28
	4	家庭地域社会とに連携	29
	5	事例研究：子ども・保育者との信頼関係の構築	30
	6	保育者に必要なコミュニケーション能力	31
	7	教育実習を振り返りパワーポイントを作成	32
	8	・実習施設の概要および特色	33
	9	・実習内容について	34
	10	・実習で学んだこと	35
	11	・今後の課題	36
	12	発表・意見交換	37
	13		38
	14		39
	15	保育・教職に就く心構えと準備	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 発表 議論 模擬保育		
テキスト/参考文献	特になし 資料等の配布		
評価の方法や基準	態度 発表 レポート		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		

履修上の 注意事項	動きやすい服装を着用
--------------	------------

授業科目	教育実習事前事後指導（スクーリング）		単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	教育実習が円滑かつ有意義に行えるよう、実習に関わる基礎的な知識の理解を深める。①幼児期の発達段階 ②幼稚園の機能と役割 ③幼稚園教諭の職務と役割 ④観察記録の作成方法 ⑤指導計画の立案方法			
授業の到達目標	教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的な知識を理解する。実習日誌の作成、指導計画の立案の方法を理解する。「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。			
授業の計画	1	幼稚園の機能と役割 法的根拠 取り巻く状況	26	
	2	幼稚園教諭の職務と役割	27	
	3	幼児期の発達課題と生活環境 家庭との連	28	
	4	課題を明確にして教育実習に取り組むため	29	
	5	実習時の幼児の姿と活動のポイント	30	
	6	実習日誌について	31	
	7	実習課題・目標の設定	32	
	8	指導計画の作成の方法①	33	
	9	「朝の会」「昼食指導」の指導計画	34	
	10	指導計画の作成の方法②	35	
	11	「中心となる活動」の指導計画	36	
	12	教育実習に向けた準備	37	
	13	教材研究① シミレーション	38	
	14	教材研究② シミレーション	39	
	15	まとめの課題	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義 演習			
テキスト/参考文献	教育実習事前事後指導（近畿大学九州短期大学）			
評価の方法や基準	態度 課題 レポート			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭			
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。			

履修上の 注意事項	手遊び、歌遊び、ゲームなどレパートリーを増やしておくこと
--------------	------------------------------

授業科目	パソコン演習	単位／時間	2 / 3 0
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	大黒 佐智男
授業の目的・テーマ	パソコンの基本操作、Word（様々な文書作成）、Excel（表計算の基本と応用）、PowerPoint（プレゼンテーションの基本と作成）、以上を実習形式で習得する。		
授業の到達目標	ビジネスの場でパソコンをツールとして使いこなせるようになる。		
授業の計画	1	ガイダンス、サインイン手順(microsoft365)	26 復習と課題【Word編】
	2	PC基礎知識、基本操作	27 復習と課題【Word編】
	3	【Windows】効率的な文字入力と便利な機能	28 復習と課題【Excel編】
	4	【Word】お知らせ文書の作成	29 復習と課題【Excel編】
	5	【Word】ビジネスレポートの作成	30 復習と課題【PowerPoint編】
	6	【Word】様々な形式の文書作成	31
	7	【Word】年賀状の作成	32
	8	【Word】クリスマスカードの作成	33
	9	【Word】スケジュール表の作成	34
	10	【Word】チラシの作成	35
	11	【Word】ポップ広告の作成	36
	12	【Word】ポスターの作成	37
	13	課題	38
	14	【Excel】基本操作	39
	15	【Excel】入力と編集	40
	16	【Excel】数式と関数	41
	17	【Excel】グラフ機能	42
	18	【Excel】データベース機能	43
	19	課題	44
	20	【Word・Excel】連携	45
	21	プレゼンテーションの基礎とPowerPointの基本操作	46
	22	【PowerPoint】プレゼンテーション作成	47
	23	〃	48
	24	【PowerPoint】スライドショー機能	49
	25	課題	50
授業の方法	パソコンを使用した実習		
テキスト/参考文献	よくわかるWord2016& Excel2016& PowerPoint2016（FOM出版）		
評価の方法や基準	提出課題、授業態度、出席率		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	民間企業、県立高等学校		
実務経験の活かし方	高等学校での情報処理に関する知識やパソコン等の利用技術についての授業を活かして、分かり易く個々のスキルアップに繋げる。		
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参		

授業科目	社会的養護Ⅱ		単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	宮地 暁男
授業の目的・テーマ	社会的養護、とりわけ児童養護施設における専門性について学ぶとともに、入所している児童の生活や保護者の現状について知り、社会的養護の意義と保育士としての役割について理解する。			
授業の到達目標	社会的養護における専門性とは何かについて理解する。 子どもたちの最善の利益を守る取組について理解し、保育士としての資質向上を図る。			
授業の計画	1	社会的養護Ⅱの授業内容オリエンテーション	26	
	2	社会的養護とは何か（基本理念の再確認）	27	
	3	児童虐待①	28	
	4	児童虐待②	29	
	5	社会的養護における子どもの人権擁護①	30	
	6	社会的養護における子どもの人権擁護②	31	
	7	社会的養護にかかわる専門職①	32	
	8	社会的養護にかかわる専門職②	33	
	9	家庭養護と施設養護	34	
	10	高知県内における児童養護施設について	35	
	11	乳児院、児童養護施設について	36	
	12	児童心理治療施設、児童自立支援施設について	37	
	13	母子生活支援施設、自立援助ホームについて	38	
	14	ケアプラン（自立支援計画）の策定	39	
	15	社会的養護の展望と課題	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義及び、演習			
テキスト/参考文献	図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」萌文書林			
評価の方法や基準	・ 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、レポートの作成及び筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(20%) 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	児童養護施設における園長代理を1年間務める。社会福祉施設長資格認定講習過程終了。短期大学において、施設実習、子育て支援等の科目を担当する。			
実務経験の活かし方	テキストの内容だけでなく、高知県内における児童養護施設での実践及び、倫理について具体的に伝え、保育士としての資質向上を図っていく。			

履修上の 注意事項	
--------------	--

授業科目	子育て支援	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	保育相談支援についてその特性と展開を具体的に理解する 様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践的事例を通して具体的に理解する		
授業の到達目標	保育相談支援の意義が理解できる 保育専門職としての保育相談支援の専門的知識・技術が習得できる 保育専門職としての価値・倫理を意識した自己の保育観が確立できる		
授業の計画	1	子どもの保育とともに行う保護者の支援	26
	2	保護者との相互理解と信頼関係の形成	27
	3	支援のニーズへの気づきと多面的な理解	28
	4	子ども及び保護者の状況。状態の把握	29
	5	支援の計画と環境の構成	30
	6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	31
	7	職員間の連携・協働	32
	8	社会資源の活用	33
	9	保育所における支援	34
	10	地域の子育て家庭に対する支援	35
	11	障害のある子ども及びその家庭に対する支	36
	12	特別な配慮を要する子どもに対する支援	37
	13	子ども虐待の予防と対応	38
	14	要保護児童等の過程に対する支援	39
	15	多様なニーズを抱える子育て支援家庭の理	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義、演習		
テキスト/参考文献	参考文献「子育て支援」		
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、筆記試験、レポート		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭・保育士		
実務経験の活かし方	保育現場での実践を通して培った経験や技法を授業の中で伝えていく		

履修上の 注意事項	なし
--------------	----

授業科目	子どもの健康と安全	単位／時間	1 / 15
開講学科等	子ども未来2年	担当教員	畠中 ゆかり
授業の目的・テーマ	子どもの事故防止及び安全対策について学び、病気や事故を未然に防ぐ能力を高める。また、体調不良や傷害が発生した場合、適切に対応できる能力を身につける		
授業の到達目標	・事故防止と安全対策の重要性がわかる。 ・身近なけがや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急時の対応ができる。		
授業の計画	1	子どもの健康と安全について	
	2	こどもの生理的機能の発達	
	3	バイタルサイン測定法（演習）	
	4	発育の評価	
	5	身体測定（モデル人形での演習）	
	6	日常に必要な養護	
	7	沐浴・入浴方法（モデル人形での演習）	
	8	沐浴・入浴方法（モデル人形での演習）	
	9	子どもの事故とその予防	
	10	応急処置・救急法(モデル人形での演習)	
	11	応急処置・救急法（包帯・三角巾を用いて演習）	
	12	子どもに多い病気とその対処	
	13	子どもに多い病気とその対処	
	14	子どもに多い病気とその対処	
	15	まとめ	
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
授業の方法	講義・演習		
テキスト/参考文献	『子どもの健康と安全』 中山書店		
評価の方法や基準	筆記試験・授業態度		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	総合病院にて助産師として勤務		
実務経験の活かし方	命を大切にする姿勢、助産師としての経験を授業の中に取り入れる。		

履修上の 注意事項	授業態度を重視します。
--------------	-------------

授業科目	青年心理学	単位／時間	2 / 30
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	合田 佳子
授業の目的・テーマ	青年期の発達課題を学び、発達の連続性を見通して支援を行える知識と態度を学ぶ。また、自己理解と受容を深め、対人援助者としての資質向上を目指す。		
授業の到達目標	毎時間のテーマについて、その背景にある心理的内面について探求する。また、社会の構成員としての自己の役割を模索する。さらに、他者との関わりや思いやりについて、考察を深める。		
授業の計画	1 青年期とは	26	青年期の対人関係と不適応
	2 青年期における変化	27	思春期の悩みと病
	3 思春期・青年期の身体的発達	28	ストレスや不安と対処行動
	4 思春期・青年期の感情・認知・思考の発達	29	大人になること・多様化する価値観との関係
	5 自尊感情と自己嫌悪感	30	青年期と自己理解・自己実現
	6 視点取得の発達と時間的展望	31	
	7 自己意識の形成	32	
	8 理想自己と現実自己	33	
	9 アイデンティティの発達	34	
	10 パーソナリティ	35	
	11 青年期と対人関係の変化	36	
	12 青年期の親子関係・家族関係	37	
	13 友人関係の発達の变化	38	
	14 青年期の友人関係	39	
	15 生涯発達の中の青年期	40	
	16 青年期の恋愛の発達	41	
	17 青年期の恋愛関係	42	
	18 青年期と学校	43	
	19 学びと主体性	44	
	20 多様な価値観と異質性との出会い	45	
	21 青年のキャリア発達	46	
	22 学校から仕事への移行	47	
	23 学校での人間関係	48	
	24 非行・問題行動	49	
	25 青年と現代社会	50	
授業の方法	講義及び演習		
テキスト/参考文献	「心のなかはどうなっているの？」高校生の「なぜ」に答える心理学 日本青年心理学会		
評価の方法や基準	筆記試験及び、レポート提出（60%）、授業態度（出席状況を含む）（20%）、意欲、関心（20%）		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する。			○
実務経験	高知県心の教育センター指導主事、チーフとして9年間勤務し、幼児期から思春期の子どもの支援に携わる。 公認心理師、学校心理士、ガイダンスカウンセラー、特別支援教育士		
実務経験の活かし方	テキストの内容だけでなく、児童及び青年期を取り巻く様々な事例を紹介するなかで、その背景や心理的内面を探究し、保育士としての資質向上を図っていく。		
履修上の注意事項			

授業科目		レッスンⅡ		単位／時間		1／30	
開講学科等		子ども未来学科2年		担当教員		徳弘 美穂	
授業の目的・テーマ		音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンを行う。					
授業の到達目標		音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術を習得する					
授業の計画	1	目標の設定（スクーリングに向けて）		26	目標の確認④		
	2	↓	グレードⅠの範囲修了者はⅡに向けて	27	↓	スクーリング前のチェックを	
	3		Ⅱの修了者はⅢに向けて練習	28		含めたレッスン	
	4			29			
	5			30			
	6		目標の確認①	31			
	7	↓		32			
	8			33			
	9			34			
	10			35			
	11		目標の確認②	36			
	12	↓		37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16		目標の確認③	41			
	17	↓		42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21		目標の確認④	46			
	22	↓		47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法			個人レッスン、各自レッスン				
テキスト/参考文献		音楽Ⅰ・声楽教本（近大九州短大編） 曲集“おひさま”					
評価の方法や基準		出席状況、授業態度、進捗状況					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		幼稚園・保育園で保育者として勤務					
実務経験の活かし方		一人一人の頑張りを認めながら、できないリズムと一緒に向き合う。					

履修上の 注意事項	テキスト、ヘッドホンを持参。
--------------	----------------

授業科目	音楽レッスンⅡ(ピアノ)			単位／時間	1／30
開講学科等	子ども未来学科2年			担当教員	大野 美寿鈴
授業の目的・テーマ	1年次での基礎技術習得から更に音楽表現への向上。 簡易伴奏でもしっかり弾き歌いができる。 課題曲終了後連弾を勉強し更にピアノの楽しさを感じさせる。更にピアノ音楽の楽しさを感じる。				
授業の到達目標	音楽表現技術の課題を終了し、スクーリング合格を目指す。				
授業の計画	1	講義→実践		26	
	2			27	
	3			28	
	4			29	
	5			30	↓
	6			31	
	7			32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15		↓	40	
	16	(後期)		41	
	17	連弾(自由曲)		42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25		50		
授業の方法	前期…同質3グループ 後期…異質3グループで行う。電子ピアノを各自使用。講義と実技全体指導。個別指導				
テキスト/参考文献	ピアノ教本(近畿大学九州短期大学)・リズムの基礎				
評価の方法や基準	実技試験・平常時の課題可否及び学習態度・出席率				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	音楽大学付属音楽教室、高等学校(音楽科)短期大学(幼児教育科)専門学校等での長年に至るピアノ指導と演奏活動				
実務経験の活かし方	ピアノ初心者にも丁寧にわかり易く導く。 各自の資質と能力に応じた指導を心掛け、更なる成長を促す。				

履修上の 注意事項	最も重要な譜読力のもと実践を積み重ねる事で演奏の基礎力が出来る。従って段階的学習の必要性から欠席すること無く講義によく集中し、 <u>毎回与えられた課題を必ず毎日練習する事が大切である。</u>
--------------	---

授業科目		音楽レッスンⅡ（声楽）		単位／時間		1 単位 3 0 時間	
開講学科等		子ども未来学科 2 年		担当教員		大野 美寿鈴	
授業の目的・テーマ		・歌唱技術の習得と共に、はっきりした日本語で歌い表現する。 ・曲のレパートリーを増やし教育現場で生かせるようにする。					
授業の到達目標		単に歌うだけでなくメロディーに伴奏を付けて楽しく弾き歌いをする。 声楽課題曲を終了しスクーリングⅡ合格を目指す。					
授業の計画	1	記録表		26			
	2	1・2・3・4・5・6		27			
	3	（個人チェック含む）		28			
	4			29			
	5	課題曲復習		30			
	6			31			
	7			32			
	8			33			
	9			34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16	その他の曲集		41			
	17	重唱・合唱		42			
	18	課題曲復習		43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		前期 2 班、各自クラビノーバ使用。後期、全体。					
テキスト/参考文献		音楽教本・ピアノ教本・その他					
評価の方法や基準		実技試験・出席率・授業態度など					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							○
実務経験		音楽大学音楽教室・高等学校（音楽科）・短期大学（幼児教育科）講師及び演奏活動					
実務経験の活かし方		幅広い層の指導経験から初歩学生にも分かり易く楽しく指導する。 生演奏を聞かせ音楽の楽しさを味わい感じたものを子どもに伝えてもらう。					
履修上の注意事項		大きな歌声だけでなく曲のイメージを考え表現しよう。 ハモル楽しさと美しさを味わう。					

授業科目	教育実習指導	単位／時間	1 単位／ 1 5 時間
開講学科等	子ども未来学科 2 年	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。具体的には施設の全体的な枠組みを理解し、実習にのぞむ心構えを作るとともに実習日誌の書き方や表現の仕方などの知識と技術を身につけることを目的とする。		
授業の到達目標	1. 実習施設の事前学習を徹底し施設の概要を知る 2. 実習日誌についての知識と技術を習得する		
授業の計画	1	オリエンテーション	26
	2	実習とは	27
	3	教育実習の意義と目的	28
	4	実習の心構え・留意事項	29
	5	教育実習の実態	30
	6	教育実習のポイント	31
	7	幼稚園の事前学習	32
	8	事前訪問後の整理	33
	9	実習記録（日誌）の書き方①	34
	10	実習記録（日誌）の書き方②	35
	11	指導計画の立て方について①	36
	12	指導計画の立て方について②	37
	13	指導計画の立て方について③	38
	14	実習後報告書作成	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義および演習		
テキスト/参考文献	幼稚園事前実習指導 「幼稚園・保育所・児童福祉施設等の実習ガイド」		
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、提出物		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		
履修上の注意事項	観察実習で学んだことを土台に内容を深め、本実習に活かせるようにする。		

授業科目	言語表現	単位／時間	1 / 1 5
開講学科等	子ども未来学科 2 年	担当教員	山下 昌世
授業の目的 テーマ	保育者として知っておくべき絵本に接し、オリジナル絵本リストを作成する。 絵本を深く味わい、必要なタイミングで相手に届けられる実践力を養う。		
授業の 到達目標	豊かな発想をもって絵本を選ぶことができるようになる。 子どもを引きつける絵本の読み聞かせができる。 遊びを通して子どものところに寄り添える保育活動を構想・実践できる		
	1	保育を豊かにする絵本	26
	2	絵本を読み解く ①	27
	3	絵本を読み解く ②	28
	4	季節の絵本 ①	29
	5	季節の絵本 ②	30
	6	季節の絵本 ③	31
	7	季節の絵本 ④	32
	8	子どもを引きつけるプログラム ①	33
	9	子どもを引きつけるプログラム ②	34
	10	絵本で遊ぶ ことば	35
	11	絵本で遊ぶ 動き	36
	12	絵本で遊ぶ 音	37
	13	詩に触れてみよう	38
	14	詩を書いてみよう	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	座学 グループワーク 実技（絵本を選ぶ・絵本を読む）		
テキスト／参考文献	配布プリント		
評価の方法 や基準	レポート （90%） 授業中の参加の様子（質問、発表など） 10%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭 児童文化財研究について研究 小学校での読み聞かせ など		
実務経験の活 かし方	言葉の発達に対する知識と子どもと豊かにコミュニケーションをとるための工夫や技術について事例を交えつつ授業を行う		

履修上の 注意事項	図書館の利用カードを作成し、実際に絵本を選び、借りたものを読むという実技を行う
--------------	---

	乳児保育 II		単位／時間	1 単位／15時間
開講学科等	子ども未来学科 2 年		担当教員	岡田 慶子
授業の目的 ・テーマ	○保育士として必要な乳児保育の知識、技能、感性を獲得する。 ○乳児期の心身の発達特徴を理解する。 ○乳児に関わる多職種を知り、他の専門職との連携を学ぶ。			
授業の 到達目標	○乳児期の発達と援助、健康、安全について知る。 ○乳児の発達に即した保育内容と環境づくりを理解する。 ○保護者を中心に、多職種との連携が取れるようになる。			
授業の 計画	1	授業のねらい 乳児保育の重要性	26	
	2	乳児保育の理念、役割	27	
	3	乳児期の発育発達	28	
	4	乳児保育の環境と安全	29	
	5	保育所における保護者支援	30	
	6	家庭・地域における保護者支援	31	
	7	子育て支援センターの役割と実際	32	
	8	多職種との連携と実際	33	
	9	演習 その1「乳児の扱い」	34	
	10	演習 その2「乳児の体調の見方と病気」	35	
	11	演習 その3「乳児の遊び」	36	
	12	各指導計画・連絡帳等記録の実際	37	
	13	グループディスカッション「乳児保育について」	38	
	14	グループディスカッション「保護者対応」	39	
	15	乳児保育と保護者支援の課題と展望	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義・演習			
テキスト/参考文献	「はじめて学ぶ乳児保育」／ 保育所保育指針 授業中に配布するプリント及び冊子			
評価の方法 や基準	授業への取り組み、態度・提出物・筆記試験			
実務経験のある教員による授業科目の場合、	右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	保育士・幼稚園教諭・保育教諭			
実務経験の 活かし方	長年にわたる、さまざまな援助が必要な子どもへの対応経験から、実践的な教育内容を展開でき、より具体的な指導を提供できる。			

履修上の 注意事項	・乳児と触れ合う機会を積極的に作ろう。 ・日頃より乳児に関する出来事に関心を持ち、さまざまな情報に目を向けよう。 ・前回までの授業内容については各自復習し理解しておこう。
--------------	---

授業科目	保育実習指導Ⅰ（施設）		単位／時間	1 単位／15 時間
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。具体的には施設の全体的な枠組みを理解し、実習にのぞむ心構えを作るとともに実習日誌の書き方や表現の仕方などの知識と技術を身につけることを目的とする。			
授業の到達目標	1. 実習施設の事前学習を徹底し施設の概要を知る 2. 実習日誌についての知識と技術を習得する			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	
	2	実習とは	27	
	3	施設実習の意義と目的	28	
	4	実習の心構え・留意事項	29	
	5	施設実習の実態	30	
	6	施設入所者の実態	31	
	7	施設実習のポイント	32	
	8	施設の事前学習(各々の実習先)	33	
	9	施設の事前学習(各々の実習先)	34	
	10	実習オリエンテーションについて	35	
	11	実習記録（日誌）の書き方①	36	
	12	実習記録（日誌）の書き方②	37	
	13	実習後報告書作成	38	
	14	↓	39	
	15	まとめ	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義、			
テキスト/参考文献	「幼稚園・保育所・児童福祉施設等の実習ガイド」			
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、提出物			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭			
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。			

履修上の 注意事項	これまでの実習体験をもとに、実習生としての心構えを再確認しながら受講する。
--------------	---------------------------------------

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）		単位／時間	2単位／90時間
開講学科等	子ども未来学科2年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	保育実習②の施設実習は、その修得した科目全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する直接的な働きかけを通じて、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている。			
授業の到達目標	実習を通して施設の現状を知り自己の課題を見つける			
授業の計画	1	児童福祉施設の内容・機能の理解	46	指導実習
		見学実習		担当保育者の指導を得た内容で
		・物的環境 地理的環境		児童の生活、プライバシーを尊重
		施設設備		した指導を行う。
		・人的環境 沿革や方針		
		児童、職員構成		
		観察実習		
		・子ども（利用者）の生活の様子		
		生活形態、保育形態		
		日課		
		・保育者、指導員の仕事		
		参加実習		
		・保育者、指導員の補助的活動		
		を通じて、保育を体験的に		
		理解する。		
	↓		↓	実習の振り返り
	45		90	実習の反省
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	なし			
評価の方法や基準	現場からの評価表による			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭			
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。			

履修上の 注意事項	施設実習の目的をはっきりと自覚して実習を開始する。 事前学習を通して、実習施設の目的・役割・機能などについて理解する。
--------------	--

授業科目	卒業研究		単位／時間	2 / 4 5
開講学科等	子ども未来学科 2 年		担当教員	徳弘 美穂
授業の目的・テーマ	これまでの学びを振り返り、卒業研究として学びを深めたい、研究したいことは何かを考える。また、意見交換や研究協議を重ね一つ一つのプロセスを大切にしながら、保育の基本姿勢を培う。			
授業の到達目標	全員が積極的にに関わり、達成感を味わう			
授業の計画	1	卒研とは何か	26	途中経過確認・今後の進め方について
	2		27	情報収集・練習・製作など
	3	研究材料について意見交換	28	
	4		29	
	5		30	
	6		31	
	7		32	
	8	手順・方法など話し合い	33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15	途中経過確認・今後の進め方について	40	リハーサル・最終確認
	16	情報収集・練習・製作など	41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	発表
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	話し合い、製作、実技			
テキスト/参考文献	なし			
評価の方法や基準	出席率、授業に対する意欲・態度			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園・保育園で保育者として勤務			
実務経験の活かし方	保育現場での具体的な保育実践を参考にしながら授業を展開していく			

履修上の 注意事項	自己理解・他者理解に努めながら一つのプロセスに向かう力発揮する。
--------------	----------------------------------

授業科目	保育実習指導Ⅱ	単位／時間	1 単位／ 1 5 時間
開講学科等	子ども未来学科 2 年	担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深め、さらに、指導計画の作成や記録など保育の実践力を養うことを目的とする。		
授業の到達目標	1、実習施設の事前学習を徹底し施設の概要を知る 2、実習日誌についての知識と技術を習得する		
授業の計画	1	保育所実習Ⅰの振り返り	26
	2	自己課題について考察	27
	3	保育実習Ⅱの目的	28
	4	実習事前訪問について	29
	5	日誌の記録の書き方①	30
	6	日誌の記録の書き方②	31
	7	保育技術の実際について①	32
	8	保育技術の実際について②	33
	9	指導計画について	34
	10	・部分実習の立案	35
	11	・責任実習の立案	36
	12	教材研究①	37
	13	教材研究②	38
	14	実習事後振り返り①	39
	15	実習事後振り返り②	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 実技		
テキスト	なし		
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、提出物		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	幼稚園教諭		
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。		

履修上の 注意事項	保育者としての役割をこれまでの実習をもとに振り返り、自身の将来とも向き合う。
--------------	--

授業科目	保育実習Ⅱ		単位／時間	2 単位／90 時間
開講学科等	子ども未来学科 2 年		担当教員	山下 昌世
授業の目的・テーマ	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようなつながるかを体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を確立していくために行う。			
授業の到達目標	実習を通して自己の課題を見つける			
授業の計画	1	見学実習：実習を行う保育所の概要を知る	46	参加実習：実際に乳幼児に接し、担任の
		物的環境		保育者の補助的活動を行い、
		地理的環境		保育を体験的に理解する。
		建物の構造、設備の配置		
		教材の状況		
		人的環境		
		沿革と保育方針		
		乳幼児の構成とクラス構成		
		教職員の構成		
		観察実習：乳幼児の実態、保育者の援助		
		保育の流れについて理解する		
				責任実習：保育者の立場を身をもって
		観察の視点		理解する。
		年齢別の発達の特徴		◎部分実習
		遊びの内容		1 日のうちで、ある部分的な
		遊びの変化		活動を担当するもの
		子ども同士のかかわり		◎1 日実習
		子どもの個性		1 日の保育全体を担当するもの
		保育者の仕事		
		年齢別のかかわり方		
		一人一人へのかかわり方		
	▼	複数の子どもへのかかわり方	▼	
	45	保育の展開、環境の工夫	90	実習のまとめ、反省
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	なし			
評価の方法や基準	現場からの評価表による			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	幼稚園教諭			
実務経験の活かし方	幼児教育現場での実際の事例を用いて具体的説明による理解や、これまでの専門学校・短大での教員歴を活かした授業を通して専門職としての向上を目指す学生を育成する。			

履修上の 注意事項	実習の目的をはっきりと自覚して実習を開始する。
--------------	-------------------------